

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ひらまつ 上場取引所 東  
 コード番号 2764 URL <https://www.hiramatsu.co.jp>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 三須 和泰  
 問合せ先責任者（役職名） 経営管理本部長（氏名） 服部 亮人 TEL 03-5793-8818  
 半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	5,555	△13.9	△50	—	△129	—	1,676	—
2024年3月期中間期	6,454	10.8	△133	—	△175	—	△205	—

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 1,689百万円(—%) 2024年3月期中間期 △226百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	23.75	22.62
2024年3月期中間期	△2.92	—

2024年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	12,462	6,046	48.3
2024年3月期	21,872	4,347	19.8

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 6,024百万円 2024年3月期 4,325百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,441	△24.7	280	5.2	217	23.7	1,609	—	22.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	74,740,400株	2024年3月期	74,740,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	4,118,789株	2024年3月期	4,159,089株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	70,590,271株	2024年3月期中間期	70,622,101株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)における国内経済は、社会経済活動の正常化による企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復が見られました。また、昨年から続く個人消費の回復やインバウンド需要が下支えとなり、高付加価値商品・サービスに関連する消費は堅調に推移しました。一方、長引く猛暑に加え、南海トラフ臨時情報の発表や週末に相次いだ台風、豪雨等の災害による消費への影響に加え、円安傾向の継続や労働力不足の進行、世界的な政情不安、資源・エネルギー価格の高騰など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、各事業において顧客に寄り添った価値提供をさらに深め、新たな機会の創出による集客拡大や単価向上を目指して、徹底した工夫と施策を重ねてまいりました。また、インバウンド需要の積極的な取り込みにも注力し、これを強力に推進してまいりました。一方、長引く猛暑の影響で外出を控える傾向が多く見られ、一部ホテルに影響が出たほか、夏の観光シーズンに発生した様々な災害発生によりパーティの中止や婚礼、宿泊の延期・キャンセル、及び2024年3月末に退店した「アルジェント」(銀座)の影響があったものの、各種施策が奏功し、各事業の売上は堅調に推移いたしました。

尚、当社グループは、2024年3月27日付「当社保有ホテル資産の譲渡に関する売買契約及びホテル運営に関する運営委託契約の締結並びに資本業務提携解消に関するお知らせ」の通り、2024年7月1日付でホテル資産を譲渡し、対象ホテルの運営受託(MC契約)を開始いたしました。譲渡日より対象ホテルの売上が当社に帰属しなくなることから、ホテル事業の売上高が減少しておりますが、従来と同様に各店の売上を集計したセグメント別売上高は次の通り、各事業とも増収となりました。

#### 連結セグメント別売上

(単位 金額：百万円、増減率：%)

セグメント	前中間連結会計期間 (2023年4月1日～ 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (2024年4月1日～ 2024年9月30日)	比較	
	金額	金額	増減	増減率
レストラン事業	4,102	4,279	177	4.3
ホテル事業	2,182	1,029	△1,153	△52.8
その他	169	246	76	45.0
合計	6,454	5,555	△899	△13.9

#### 連結セグメント別売上(従来と同様に各店の売上を集計)

(単位 金額：百万円、増減率：%)

セグメント	前中間連結会計期間 (2023年4月1日～ 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (2024年4月1日～ 2024年9月30日)	比較	
	金額	金額	増減	増減率
ホテル事業	2,258	2,357	99	4.4
合計	6,454	6,740	285	4.4

注) 上記は、監査法人による期中レビューの対象外です。

利益面においては、増収効果に加え、高騰する原材料やエネルギーコスト等の影響をしっかりとコントロールした結果、営業利益、経常利益は、前年同期比、計画比共に損失減となり、当期利益はホテル資産売却による特別利益計上により前年同期比大幅増となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社グループの業績は、売上高5,555百万円(前年同期比13.9%減、計画比2.3%増)、営業損失50百万円(前年同期は営業損失133百万円、計画は営業損失99百万円)、経常損失129百万円(前年同期は経常損失175百万円、計画は経常損失146百万円)、親会社株主に帰属する中間純利益1,676百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失205百万円、計画は中間純利益1,261百万円)となりました。

なお、2025年3月期の連結業績予想につきましては、今後の不確定要因に鑑み一旦据え置きますが、確定次第速やかに公表いたします。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(レストラン事業)

当中間連結会計期間におけるレストラン事業の売上高は4,279百万円(前年同期比4.3%増、計画比2.5%増)、営業利益は318百万円(前年同期比19.1%増、計画比45.9%増)となりました。

2024年3月31日に退店したレストラン「アルジェント」(銀座)の影響があったものの、戦略投資として前期にリニューアルオープンした「リストランテASO」及び「カフェ・ミケランジェロ」(代官山)が引き続き好調に推移したに加え、新たな価値の創出により集客機会となるパーティ開催や、メニュー構成の変更、高単価ワインペアリングの提案など、集客と単価アップに向けた様々な施策の積み重ねにより売上アップにつなげたこと、また、宝飾メーカーやブランド企業の大規模パーティが増加したことなどにより、既存店の売上は計画並びに前年同期を上回る結果となりました。

婚礼営業につきましては、台風や豪雨等の影響により一部店舗にてキャンセルや延期の影響がありましたが、料飲の提案をはじめ、多様化する顧客ニーズを的確に捉えたこだわりの高品質商品の提案を網羅的に展開することで、人数減の影響から減少傾向にある組単価を高く維持することができ、既存店売上は計画並びに前年同期を上回る結果となりました。

利益面においては、増収効果に加え、各種コストコントロールにより、営業利益は前年同期比、計画比共に増益となりました。

(ホテル事業)

当中間連結会計期間におけるホテル事業の売上高は1,029百万円(前年同期比52.8%減、計画比1.7%増)、営業損失は38百万円(前年同期は営業利益85百万円、計画は営業損失42百万円)となりました。なお、前述の通り、2024年7月1日付でホテル資産を譲渡し、対象ホテルの運営受託を開始したことより、譲渡日より対象ホテルの売上が当社に帰属しなくなったため、売上高は前年同期比減収となりましたが、従来と同様に各店の売上を集計した売上高においては、前年同期比4.4%の増収となっております。

長引く猛暑により京都の稼働率が伸び悩んだことや、南海トラフ臨時情報の発表や週末に相次いだ台風、豪雨等の災害によるキャンセルなどの影響があったものの、リピーターや外国人観光客を中心に長期滞在の利用が増えていたりことや、法人営業強化による富裕層団体利用を取り込んだことで、稼働および単価がアップし、売上は堅調に推移しました。各ホテルにおいては、引き続き地産地消の料理に加え、地域と連携した商品を開発し、魅力ある体験を提案できる価値作りを進めており、その結果として全店でリピート率が伸びる傾向となり、安定した予約の確保に繋がっております。また、インバウンドについては、京都の他、箱根仙石原、熱海、軽井沢御代田における影響が大きく、アジア圏を中心に、ヨーロッパ、アメリカからのお客も増える傾向にあり、連泊利用やスイートルームの利用が増えることで、稼働率の上昇に加え、前年を上回る単価に繋がっております。また「ミシュランガイド2024」において、ホテルにおける新たな評価指標としてアジア初となる「ミシュランキー」が宿泊施設108軒に付与されましたが、そのうち当社の5つのホテルが1ミシュランキーとして掲載されました。足元では、早速「ミシュランキー」の付与を確認して来訪したインバウンドの事例もあり、今後のインバウンド獲得等への寄与が期待されます。

利益面においては、増収効果により営業利益は計画比損失減となりましたが、前年同期比においては、前期より進めてきた人員増強による人件費増加などの影響により損失増となりました。

(その他)

当中間連結会計期間におけるその他の売上高は349百万円(前年同期比45.8%増)、営業利益は101百万円(前年同期比377.8%増)となりました。なお、連結子会社との内部取引にかかる調整額を除いた実績は、売上高246百万円(前年同期比45.0%増)、営業利益99百万円(前年同期比286.4%増)となっております。なお、2024年7月1日付で開始したホテルの運営受託報酬を当中間連結会計期間よりその他売上として計上しております。

ホテルの運営受託報酬による増収に加え、引き続き高価格帯商品の販売が好調なオンライン販売や、「カフェ・ミケランジェロ」のライセンス1号店「アルベルゴ・カフェ・ミケランジェロ」(難波)の運営受託等が堅調に推移いたしました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

### ①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ9,409百万円減少し、12,462百万円となりました。これは主に、有形固定資産が10,335百万円減少したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ11,108百万円減少し、6,416百万円となりました。これは主に、長期借入金が12,181百万円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ1,699百万円増加し、6,046百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1,676百万円増加したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,021百万円増加し、6,652百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、支出した資金は572百万円(前年同期は384百万円の収入)となりました。これは主に、仕入債務の減少が330百万円(同159百万円の増加)、未払金の減少が203百万円(同199百万円の増加)となったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、獲得した資金は12,259百万円(前年同期は324百万円の支出)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の売却による収入が12,126百万円(同実績なし)となったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、支出した資金は10,668百万円(前年同期は19百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が14,481百万円(同実績なし)となったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、今後の不確定要因に鑑み一旦据え置きますが、確定次第速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,630,366	6,652,035
売掛金	859,622	451,562
原材料及び貯蔵品	1,451,020	1,576,693
その他	432,909	730,616
貸倒引当金	△3,263	△3,199
流動資産合計	8,370,655	9,407,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,601,516	1,615,407
土地	764,963	123,808
その他(純額)	1,026,627	318,156
有形固定資産合計	12,393,107	2,057,372
無形固定資産		
投資その他の資産	28,568	77,938
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,064,757	902,025
その他	13,858	17,822
投資その他の資産合計	1,078,616	919,847
固定資産合計	13,500,292	3,055,158
繰延資産		
新株予約権発行費	1,028	-
社債発行費	303	-
繰延資産合計	1,332	-
資産合計	21,872,280	12,462,867

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	733,528	402,158
短期借入金	-	1,700,000
1年内償還予定の社債	100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	-	230,000
未払法人税等	32,424	16,212
契約負債	389,443	387,428
その他	1,165,428	1,453,965
流動負債合計	2,420,825	4,189,764
固定負債		
長期借入金	14,423,881	2,012,500
資産除去債務	602,936	214,255
その他	77,575	166
固定負債合計	15,104,392	2,226,921
負債合計	17,525,217	6,416,685
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	7,658,519	7,645,077
利益剰余金	△1,474,487	202,101
自己株式	△2,066,387	△2,042,934
株主資本合計	4,217,644	5,904,243
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	107,898	120,417
その他の包括利益累計額合計	107,898	120,417
新株予約権	21,520	21,520
純資産合計	4,347,062	6,046,181
負債純資産合計	21,872,280	12,462,867



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	6,454,694	5,555,250
売上原価	2,715,524	2,441,588
売上総利益	3,739,169	3,113,661
販売費及び一般管理費	3,872,888	3,163,825
営業損失(△)	△133,719	△50,163
営業外収益		
受取利息	26	602
為替差益	-	830
業務受託料	3,557	4,231
受取賃貸料	7,184	10,652
その他	7,017	23,501
営業外収益合計	17,785	39,819
営業外費用		
支払利息	44,429	33,321
社債利息	356	239
アレンジメントフィー	-	80,000
為替差損	7,801	-
株式報酬費用消滅損	2,421	613
その他	4,450	5,333
営業外費用合計	59,458	119,508
経常損失(△)	△175,392	△129,852
特別利益		
固定資産売却益	-	1,808,212
特別利益合計	-	1,808,212
特別損失		
固定資産除却損	14,355	-
特別損失合計	14,355	-
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△189,747	1,678,359
法人税、住民税及び事業税	16,212	16,212
法人税等調整額	-	△14,441
法人税等合計	16,212	1,770
中間純利益又は中間純損失(△)	△205,959	1,676,588
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△205,959	1,676,588

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△205,959	1,676,588
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△20,320	12,519
その他の包括利益合計	△20,320	12,519
中間包括利益	△226,279	1,689,108
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△226,279	1,689,108
非支配株主に係る中間包括利益	-	-

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△189,747	1,678,359
減価償却費	387,592	234,243
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△31	△63
固定資産除却損	14,355	-
アレンジメントフィー	-	80,000
支払利息	44,429	33,321
社債利息	356	239
株式報酬費用	36,593	10,918
固定資産売却益	-	△1,808,212
売上債権の増減額(△は増加)	△35,740	418,055
棚卸資産の増減額(△は増加)	△57,407	△125,672
前渡金の増減額(△は増加)	14,276	△24,919
仕入債務の増減額(△は減少)	159,010	△330,886
未払金の増減額(△は減少)	199,848	△203,213
未払費用の増減額(△は減少)	20,622	△67,513
未払消費税等の増減額(△は減少)	△165,438	11,979
前受金の増減額(△は減少)	16,300	△16,120
預り金の増減額(△は減少)	84,667	△56,999
その他	△68,920	△342,961
小計	460,765	△509,446
利息及び配当金の受取額	26	602
利息の支払額	△44,146	△31,055
法人税等の支払額	△32,424	△32,424
営業活動によるキャッシュ・フロー	384,221	△572,322
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	-	△13,600
有形及び無形固定資産の取得による支出	△285,098	△144,061
有形及び無形固定資産の売却による収入	-	12,126,201
資産除去債務の履行による支出	△39,050	-
敷金及び保証金の差入による支出	-	△3,216
敷金及び保証金の回収による収入	20	294,005
投資活動によるキャッシュ・フロー	△324,128	12,259,328
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	1,700,000
長期借入れによる収入	100,000	2,300,000
長期借入金の返済による支出	-	△14,481,381
社債の償還による支出	△100,000	△100,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△19,896	△7,020
アレンジメントフィーの支払額	-	△80,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,896	△10,668,401
現金及び現金同等物に係る換算差額	238	3,065
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	40,435	1,021,669
現金及び現金同等物の期首残高	5,259,699	5,630,366
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,300,134	6,652,035

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる中間連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。これによる前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	中間連結損益 計算書計上額 (注)3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	4,046,482	2,133,655	6,180,137	—	—	6,180,137
物販その他等	55,590	49,163	104,753	169,802	—	274,556
顧客との契約から 生じる収益	4,102,072	2,182,818	6,284,891	169,802	—	6,454,694
外部顧客への売上高	4,102,072	2,182,818	6,284,891	169,802	—	6,454,694
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	70,140	△70,140	—
計	4,102,072	2,182,818	6,284,891	239,943	△70,140	6,454,694
セグメント利益又は損失(△)	267,201	85,906	353,107	21,139	△507,966	△133,719

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去4,585千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△512,551千円であります。
3. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	中間連結損益 計算書計上額 (注) 3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	4,201,606	1,008,675	5,210,281	—	—	5,210,281
物販その他等	78,150	20,535	98,686	246,282	—	344,968
顧客との契約から 生じる収益	4,279,756	1,029,210	5,308,967	246,282	—	5,555,250
外部顧客への売上高	4,279,756	1,029,210	5,308,967	246,282	—	5,555,250
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	103,639	△103,639	—
計	4,279,756	1,029,210	5,308,967	349,921	△103,639	5,555,250
セグメント利益又は損失(△)	318,151	△38,738	279,412	101,004	△430,580	△50,163

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去△1,610千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△428,970千円であります。
3. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

当中間連結会計期間において、ホテル資産を売却したことを機にセグメントの管理区分の見直しを行い、「ホテル事業」に含まれていた指定管理制度に基づく業務受託事業(「オーベルジュ・ド・ぶれざんす桜井」)について「その他」へ区分することといたしました。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。